

竹早だより

平成26年度12月号
平成26年12月22日
東京都立竹早高等学校
文京区小石川4-2-1
電話03(3811)6961

「格言」で考える大学受験

校長 高田 純一

長かった2学期もまもなく終わります。1年が過ぎ去ります。今年を振り返って自分の高校生活はどうだったか、よく考えましょう。そして、来年の自分はどのようにありたいか具体的な目標を立てましょう。年末年始は、新しい行動を開始する大きなチャンスです。

さて、今回から大学受験について格言で考えるシリーズをお届けします。一応すべて私の作成したものですので、気に入ったものがあれば覚えてほしいと思います。

入試格言① 「受けなければ受からない」

「〇〇さんが△△大に受かったよ。」「それは、すごいね。」という先生たちの会話はどの高校でも春にはよく聞かれます。その時私が思うのは、受かったこともすごいが受けていたこと自体がすごいのだということです。「受けなければ受からない」は当然のことのようですが、大学を受験するにはエネルギー（お金を含めて）が必要であり、諦めずに高い目標に挑んだ勇気をまずたたえたいと思います。ただしそれは向こう見ずの勇気ではなく、自分なりの戦略に裏打ちされた勇気であってほしいものです。

「現役は直前まで伸びる」というのは本当です。しかも、驚異的に伸びる人がいます。模試のない、見えない直前期こそ大切です。ぜひ皆を驚かせる好結果を見せてください。

入試格言② 「情熱的に、かつ冷静に」

15年ほど前の小説のタイトルから作ったものですが、大学受験のコツを突き詰めていくと、ここに行き着くのではないかと思います。第一志望校に何としても合格するというギラギラ燃えるような熱い気持ちこそが、受験勉強を乗り越える原動力になるわけですが、一方で冷静な判断力も求められます。浪人覚悟で突き進むのか、1段階下げて確率を高めるのかということを決めなければならないからです。滑り止め校を1校追加しておくような冷静さも必要です。情熱と冷静さのバランスのとれた人ほど、好結果を生むように思います。

入試格言③ 「補欠三校」

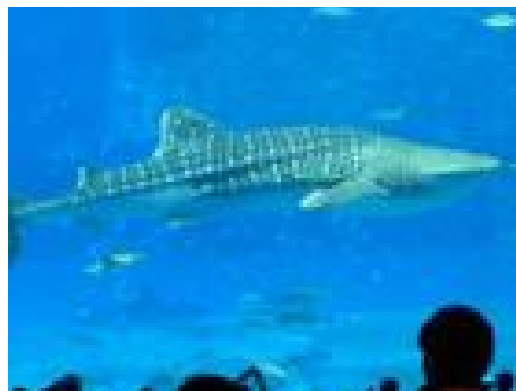
「石の上にも三年」といったことわざと同様に、「三」という数字に具体的な意味はありません。一人で3校も補欠になることがある、大学受験には何かあるかわからないという意味の警句ですが、ねばって受けていくと何かいいことがあるかも知れないというニュアンスも込めたつもりです。

なお、生徒から「補欠合格しました」という報告があった場合、「補欠になっただけ」なのか「補欠から繰り上がって合格した」のか紛らわしいことがありますので、報告は正確にお願いします。私大の場合、3月31日の手続き締切で欠員が出て、4月以降に合格通知が来ることもあります。また、国公立大でも3月下旬に追加合格の連絡が来る場合があります。がんばった人には幸運が訪れるかもしれませんね。

成果の多かった沖縄修学旅行

12月15日（月）～17日（水）の3日間、2年生の沖縄修学旅行が実施されました。2日目、強風のため、シーカヤックなど一部の体験学習が変更になった以外は、すべて順調に日程を消化し、全員無事に帰京しました。

3日間、沖縄の歴史・自然・文化について学び、大きな成果がありました。友人や先生方と寝食をともにしたこともよい思い出になったと思います。この体験を生かし、高校生活後半をますます充実させるよう期待しています。



＜沖縄美（ちゅ）ら海水族館＞

お年玉「発想カクイズ」 ～年末年始は、この問題で頭を柔らかくしよう！～

皆さんに「発想カクイズ」をお届けします。次の問題の解答をできるだけ多く考えましょう。解答のユニークさに応じて、☆（一つ星）から☆☆☆（三つ星）まで差し上げます。発想の飛躍した解答ほど高得点です。解答例の発表は、次号1月号です。

＜問題＞

ある駅前に同じ牛丼チェーンの店が2店（A・B）ある。メニューや味、店の造りまで全く同じである。ある人が店に入ろうとして2店を見比べるとAはカウンターに多数の客がいるのに対し、Bは比較的空いていた。しかしその人は混んでいるAに入った。この理由として考えられることを挙げよ。



12月・1月の主な行事予定

＜12月＞

- 23（火）**天皇誕生日**
- 25（木）終業式
- 26（金）冬季休業日始



＜1月＞

- 1（木）**元日**
- 7（水）冬季休業日終
- 8（木）始業式
- 9（金）課題テスト（1・2）
- 12（月）**成人の日**
- 17（土）大学入試センター試験始
- 18（日）大学入試センター試験終
- 26（月）都立推薦入試始
- 27（火）都立推薦入試終